

2-2. フォッカー・プランク (FP) 方程式

目標 FP 方程式の導出における仮定と、ランダム力と 2 階微分の関係を理解する。具体的には以下のことを分かる。

- 分布関数 $P(x, t)$ は時刻 t に X が $x \sim x + dx$ にある確率と関係し、FP 方程式は、その時間変化を表す。
- $X(t)$ がランジュバン方程式を満たす時、任意関数 $f(x)$ を t でテーラー展開すると、1 次のオーダーまでに x に関する 2 階微分が含まれる。
- FP 方程式は下の仮定 1、2、3 を満たした時ランジュバン方程式から導ける。

- 目次 (1) 分布関数と FP 方程式
 (2) ランジュバン方程式からの導出の概要
 (3) ランジュバン方程式からの導出の詳細
 (4) まとめ

- 仮定 1. $X(t)$ と $R(t')$ が $t < t'$ で統計的に独立。
 2. $\langle R(t) \rangle = 0$ $\langle R(t)R(t') \rangle = D\delta(t - t')$
 3. $R(t)$ がガウス過程。
 4. (余分) 考えている領域は無限で、 $P(x, t)$ を分布関数とすると、
 $x \rightarrow \pm\infty$ で、 $P(x, t) \rightarrow 0, \partial P(x, t)/\partial x \rightarrow 0$

結論 ランジュバン方程式

$$\dot{X}(t) = F(X(t)) + R(t) \quad (1)$$

と FP 方程式

$$\frac{\partial P(x, t)}{\partial t} = \left\{ -\frac{\partial}{\partial x} F(x) + \frac{\partial^2}{\partial x^2} \frac{D}{2} \right\} P(x, t) \quad (2)$$

は、等価。

参考文献: 宗像豊哲著「物理統計学」朝倉書店

(1) 分布関数と FP 方程式

分布関数 $P(x, t)$:
 時刻 t に X が $x \sim x + dx$ にある確率 $= P(x, t)dx$

FP 方程式は、 $P(x, t)$ の時間変化を与える式。

(2) ランジュバン方程式からの導出の概要

$f(x)$ を任意関数にして、 $f(X(t + \Delta t))$ をテーラー展開する。ここで、

$$\Delta X(t) = F(X(t))\Delta t + \Delta W \quad (3)$$

ただし、 $\Delta X(t) = X(t + \Delta t) - X(t)$ とした。

まず $\Delta X(t)$ について展開する。

$$f(X(t + \Delta t)) = f(X(t)) + \left. \frac{df}{dX} \right|_{X=X(t)} \Delta X(t) + \frac{1}{2} \left. \frac{d^2f}{dX^2} \right|_{X=X(t)} \Delta X(t)^2 + \dots \quad (4)$$

(3) 式を代入すると、

$$\begin{aligned} f(X(t + \Delta t)) &= f(X(t)) + \left. \frac{df}{dX} \right|_{X=X(t)} \{F(X(t))\Delta t + \Delta W\} \\ &\quad + \frac{1}{2} \left. \frac{d^2f}{dX^2} \right|_{X=X(t)} \{F(X(t))\Delta t + \Delta W\}^2 + \Delta X \text{ の 3 次以上の項} \end{aligned} \quad (5)$$

両辺の平均を考える。

$$\begin{aligned} \langle f(X(t + \Delta t)) \rangle &= \langle f(X(t)) \rangle + \left\langle \left. \frac{df}{dX} \right|_{X=X(t)} \{F(X(t))\Delta t + \Delta W\} \right\rangle \\ &\quad + \frac{1}{2} \left\langle \left. \frac{d^2f}{dX^2} \right|_{X=X(t)} \{F(X(t))\Delta t + \Delta W\}^2 \right\rangle + \langle \Delta X \text{ の 3 次以上の項} \rangle \end{aligned} \quad (6)$$

Δt のオーダーでも (6) 式の右辺に d^2f/dx^2 が残ることを示す。

怪しいのは、右辺 3 項目から出る ΔW^2 の項、つまり

$$\left\langle \frac{1}{2} \left. \frac{d^2f}{dX^2} \right|_{X=X(t)} \Delta W^2 \right\rangle \quad (7)$$

仮定1 から

$$\left\langle \frac{1}{2} \left. \frac{d^2f}{dX^2} \right|_{X=X(t)} \Delta W^2 \right\rangle = \left\langle \frac{1}{2} \left. \frac{d^2f}{dX^2} \right|_{X=X(t)} \right\rangle \langle \Delta W^2 \rangle \quad (8)$$

仮定2 から

$$= \left\langle \frac{1}{2} \left. \frac{d^2f}{dX^2} \right|_{X=X(t)} \right\rangle D\Delta t \quad (9)$$

これは、 Δt のオーダーになっている。

(3) ランジュバン方程式からの導出の詳細

① 平均値の方程式

(6) の他の項を計算する。

まず、右辺の 2 項目は、

$$\left\langle \frac{df}{dX} \Big|_{X=X(t)} \{F(X(t))\Delta t + \Delta W\} \right\rangle = \left\langle \frac{df}{dX} \Big|_{X=X(t)} F(X(t))\Delta t \right\rangle + \left\langle \frac{df}{dX} \Big|_{X=X(t)} \Delta W \right\rangle \quad (10)$$

(10) 式の右辺 2 項目を仮定 1 を使って計算する。 ΔW の時間は、 t より後なので、この仮定から別々に平均することが出来る。

$$\left\langle \frac{df}{dX} \Big|_{X=X(t)} \Delta W \right\rangle = \left\langle \frac{df}{dX} \Big|_{X=X(t)} \right\rangle \langle \Delta W \rangle = 0 \quad (11)$$

次に (6) 式の右辺 3 項目は、

$$\begin{aligned} & \frac{1}{2} \left\langle \frac{d^2 f}{dX^2} \Big|_{X=X(t)} \{F(X(t))\Delta t + \Delta W\}^2 \right\rangle \\ &= \frac{1}{2} \left\langle \frac{d^2 f}{dX^2} \Big|_{X=X(t)} \{F(X(t))^2 \Delta t^2 + 2F(X(t))\Delta t \Delta W + \Delta W^2\} \right\rangle \end{aligned} \quad (12)$$

$$\begin{aligned} &= \left\langle \frac{1}{2} \frac{d^2 f}{dX^2} \Big|_{X=X(t)} F(X(t))^2 \Delta t^2 \right\rangle + \left\langle \frac{1}{2} \frac{d^2 f}{dX^2} \Big|_{X=X(t)} 2F(X(t))\Delta t \Delta W \right\rangle \\ & \quad + \left\langle \frac{1}{2} \frac{d^2 f}{dX^2} \Big|_{X=X(t)} \Delta W^2 \right\rangle \end{aligned} \quad (13)$$

(13) 式の 2 項目は、また仮定 1 を使って、

$$\left\langle \frac{1}{2} \frac{d^2 f}{dX^2} \Big|_{X=X(t)} 2F(X(t))\Delta t \Delta W \right\rangle = \left\langle \frac{1}{2} \frac{d^2 f}{dX^2} \Big|_{X=X(t)} 2F(X(t))\Delta t \right\rangle \langle \Delta W \rangle = 0 \quad (14)$$

3 項目は、(2) で計算した。

結局

$$\begin{aligned} \langle f(X(t + \Delta t)) \rangle &= \langle f(X(t)) \rangle + \left\langle \frac{df}{dX} \Big|_{X=X(t)} F(X(t))\Delta t \right\rangle + \left\langle \frac{1}{2} \frac{d^2 f}{dX^2} \Big|_{X=X(t)} F(X(t))^2 \Delta t^2 \right\rangle \\ & \quad + \left\langle \frac{1}{2} \frac{d^2 f}{dX^2} \Big|_{X=X(t)} \right\rangle D\Delta t + \langle \Delta X \text{ の 3 次以上の項} \rangle \end{aligned} \quad (15)$$

ここで、仮定 3 を使う。 ΔX の 3 次の項は、 $\Delta t^k \Delta W^{n-k}, n \geq 3, k \leq n$ に比例するので、仮定 3 から、

$$\langle \Delta X \text{ の 3 次以上の項} \rangle \propto \Delta t^2 \text{以上} \quad (16)$$

となる。したがって、

$$\frac{d}{dt} \langle f(X(t)) \rangle \equiv \lim_{\Delta t \rightarrow 0} \frac{f(X(t + \Delta t)) - f(X(t))}{\Delta t} \quad (17)$$

$$= \left\langle \frac{df}{dX} F(X(t)) \right\rangle + \frac{D}{2} \left\langle \frac{d^2 f}{dX^2} \right\rangle \quad (18)$$

$f = f(X)$ の微分は、微分した後に $X = X(t)$ を代入する。(18) 式は、任意関数 $f(X)$ の平均値の方程式を表している。

宿題:

7 (20 点) 授業で扱った例以外に、ランジュバン方程式で記述できる現象を一つ以上探し、ランジュバン方程式を書いて説明しなさい。その場合のランダム力の実態は何か。ただし、ここで言うランジュバン方程式は、「授業ノート 2」の仮定に書いてある式を指す。

8 (10 点) 電子が無理やりランジュバン方程式を満たしているとして、以下の様に抵抗を計算しなさい。

電子の速度を $V(t)$ とすると 1 次元で

$$m\dot{V}(t) = -\lambda V(t) + R(t) + eE \quad (19)$$

ここで、 E は、時間変化しない電場を表す。 $t = 0$ で $V(0) = v_0$ とすると、十分時間が経った後で、電流 $n\langle V \rangle S$ が E に比例することを示し、その比例係数を求めなさい。ただし、 n と S は、それぞれ電子の密度と導線の断面積をあらわす。

9 (5 点) $\langle R(t)R(t') \rangle = D\delta(t - t')$ を満たすランダム力 $R(t)$ について、

$$\Delta W = \int_t^{t+\Delta t} R(t') dt' \quad (20)$$

とした時、

$$\langle \Delta W^2 \rangle = D\Delta t \quad (21)$$

となる事を示しなさい。

- 10 (5 点) 複数の確率変数 $\Delta W_i, i = 1, \dots,$ があって、互いに独立、すなわち $\langle \Delta W_i \Delta W_j \rangle = d\delta_{ij}$ の時、

$$\delta W_k \equiv \sum_{i=nk}^{n(k+1)-1} \Delta W_i \quad (22)$$

で定義される δW_k について、 $\langle \delta W_k \delta W_l \rangle = nd\delta_{kl}$ を示しなさい。 $\langle \Delta W_i \Delta W_j \rangle = d$ の時はどうなるか。

- 11 (20 点) ランダム力についての仮定 2 のかわりに、

$$\langle R(t)R(t') \rangle = \begin{cases} D & t = t' \\ 0 & t \neq t' \end{cases} \quad (23)$$

の時、平均値の方程式 (18) はどうなるか考えなさい。ただし、後の条件はまったく同じとする。

- 12 (30 点) 伊藤積分について調べてレポートにしなさい。定義と性質は何か。